

「ロータリー財団の歴史」

昨谷口医院は小さな診療所ですが、今年で26年目になります。開業当初は、地盤もなくお金もないため苦労しました。薬代も払えないほどで、分割で支払いをお願いしたこともあります。患者さんの診療と医院の経営を一人でしていると、どうしても収入を考え過剰診療になり、必要以上の検査をしたりしてしまい、後悔していました。これではだめだと思い、家内と税理士にお金の管理を任せてしまったのです。

私は診療だけに専念でき、楽になったのですが、今となっては自由に使えるお金がなくて困っています。

国際ロータリーとロータリー財団も、私の診療所と同じような関係ではないかと思っています。もちろん家内と税理士がロータリー財団にあたります。

ロータリー財団は、1917年、アトランタで開催された国際大会において、アーチ C、クランフが「世界的な規模で慈善・教育・その他社会奉仕の分野でよりよいことをするための基金をつくらう」と提案したことに始まりました。

アーチ C、クランフは、6代目のRI会長で、ロータリー財団の父と呼ばれています。この年に、カンザス・シティーRCから25ドルが送金され、基金が成立したのです。

1927年のミネアポリスの国際大会で、この基金はロータリー財団と名づけられました。1931年に財団は信託組織となり、信託宣言をしました。

その宣言は、「ロータリー財団が受け取り管理する財産およびその収入は、すべて国際ロータリーが行なう活動のためのみに支出される」というものです。

よって、財団の管理運営費は寄付金からは一切出さず、年次基金の投資収益でまかなわれています。大変厳しく管理されています

1947年にポール・ハリスが、シカゴの自宅で亡くなると、70カ国以上、30万人以上のロータリアンがロータリーの創始者の死を悼み、寄付金が国際ロータリーに寄せられました。

財団もポール・ハリス記念基金を設け、ポールに敬意を表したいロータリアンに対して、財団寄付をお願いしました。

その反響はすばらしく翌年までに、130万ドル以上が寄付されたのです。

この資金を元に、1948年最初の財団プログラム、高等研究奨学金が始まりました。

アメリカ、ベルギー、イギリス、フランス、メキシコと中国の若い人達を選ばれ、他国でそれぞれの専門分野を勉強したのです。これが最初のロータリー国際親善奨学生だったのです。

以前お話した、緒方貞子さんは、日本の二人目の奨学生で1951年にワシントン D.C のジョージタウン大学で勉強しました。その後の活躍は、皆様ご存じの通りです。

1996年ロータリー国際理解賞、2016-17年度にロータリー学友奉仕賞を受賞し、2004年大坂交際大会では、印象的な基調講演をされました。

財団は、この奨学金プログラムを契機に、発展し、以後様々なプログラムを提案して実行してきました。最も有名で、最も力を入れているプロジェクトがポリオプラスです。財団の歴史は、ある意味でプログラムの歴史でもあるのです。

